

善照寺
寺報

ぜんしょうじ

第14号

〒272-0131

市川市湊十八番二十号 善照寺
電話 四七(三五七)二二三二
FAX 〇四七(三九七)二二三二

お釈迦様の誕生を祝う

善照寺住職 今岡達雄

四月八日はお釈迦さまの誕生をお祝いする「花まつり」です。花まつりは「降誕会」「灌仏会」とも呼ばれ、古くより親しまれてきた春らしい仏教行事です。寺によっては白象の上に花で飾られた御堂をつくり、御堂の中の水盤の中央に誕生仏を安置し、ひしゃくで甘茶を濯ぎます。自身の記憶では幼稚園のときに花まつりをしたことが有りますが、善照寺で花まつりの行事を行ったことは一度しか有りません。もう三十年前になるでしょうか、浄土宗僧侶の青年会で各寺院回り持ちで花まつりをしていました。しかし、幼

稚園などの施設がないと子供達を集めることが難しいため次第にしぼんでしまった経験があります。日本の花まつりは子供達のお祭りだったのでですね。ところで、お釈迦さまは釈迦族の王、浄飯王と摩耶夫人の間に紀元前四六三年に生まれたとされています。伝説では摩耶夫人が白象が胎内に入る夢を見て懐妊され、出産のために里帰りする途中、ルンビニーという場所誕生されました。そしてお生まれになってすぐに七歩あるかれ、右手で天を左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と発声し、天上の龍がその頭上に

甘露の雨を降らせたといわれています。ですから、白象の背にお堂を置き、その中に右手で天を、左手で地を指した誕生仏を安置し甘茶を濯ぐのです。

日本や中国の大乗仏教では四月八日がお釈迦様の誕生日とされていますが、タイやスリランカなどの上座部仏教国ではお釈迦様の誕生日はヴェサック(ウーサーカ)月の満月の日とされています。悟りを開かれた日(成道)も、お亡くなりになった日(入涅槃)も同じ日であったとされています。ヴェサック月とは現在の暦では五月(六月くらいで、年によって変わります。ちなみに今年のタイのヴィサカブーチャ(仏誕節)は五月二十二日(日)です。タイでは仏誕節は祝日ですから五月二十三日(月)が振り替え休日になっています。スリランカでは五月二十三、二十四日がウエサック月の満月祭と翌日祭で祝日になっています。インド

ネシアはイスラム教の国というイメージが強いのですが五月二十四日がワイサック(ブツダの生誕・成道・涅槃)となっており祝日になっています。ちなみにインドネシアではマホメットの誕生日・昇天日、キリストの誕生日・昇天日も祝日になっています。

日本ではちょうど桜の咲く頃の四月八日になり、花祭りという名前の子供の祭りになり、大人に取ってはお釈迦様よりも桜の下での宴会が中心になってしまったようです。本来花まつりは、お釈迦さまが私たちに教えてくださったいのちの尊さ、この世界で生かされていることへのよろこびを今一度見つめ直す日なのでしょうね。(住職)



住職法話

いけらば念仏の功つもり、

しなば浄土へまいりなん

とてもかくても、此の身には、

思わすろつ事ぞなきと思いぬれば、

死生ともにわすらいなし

毎日の暮らしの中で

私たちは、欲しい物を欲しい

ときに手に入れることが出来、

安らかで楽しい、つまり安楽な

生活を続けたいと願っています

す。また年を取らずにいつまで

も健康な生活をおくりたいと

願っています。戦後六十年にな

ります、六十年間をかけてこの

の夢のような生活を実現したの

です。多少の不満はあるでしょ

うが世界的に見れば欲しい物は

なんでも手に入れることができ

る社会であり、世界で最も長寿

の国を実現しました。でも本当

に私たちは幸せになったので

しょうか。

確かに長生きになり、あふれ

んばかりの物に囲まれた生活で

すが、本当に幸せな生活なので

しょうか。人生は楽しいことば

かりではなく、欲しくても手に

入らないことはいっぱいありま

す。また、生きたくても生きら

れないというように、苦しいこ

とも辛いこともあるのではない

でしょうか。人間は毎日毎日戻

ることの出来ない時間の流れに

流されて、日に日に年老いてい

くのではないのでしょうか。

お釈迦様のお悟り

お釈迦様はこの世は四苦八苦

であるを看破されました。四苦

とは「生老病死」、八苦とはこ

の四苦に「愛別離苦」「怨憎会

苦」「求不得苦」「五陰盛苦」

の四つの苦を合わせたもので

す。私達はいつまでも若くあり

たいと思つてもやがては老いて

いきます。長生きしたいと願つ

ても、縁が尽きたら死ななけれ

ばなりません。つまり、実は私

たちにとって都合の悪い老病死

こそが生きていることの実質な

のです。愛別離苦とは愛する人

と別れねばならぬ苦、怨憎会苦

とは嫌いな人と出会わなければ

ならない苦です。求不得苦とは

求めても得られない苦、五陰盛

苦とは私達が肉体から出来てい

ることによつて起こる苦です。

まさしく苦悩そのものです。

私たちが生きるとは、そうい

う苦悩する人生を生きることな

のです。お釈迦様のお悟りに

なつた真理とは、私たちが苦悩

から逃避させるのではなく、苦

悩の正体に目覚めさせ、苦悩す

る人生を引き受けて立ち上ら

せていく教えなのでしよう。私

達は、健康で楽しい生活を送つ

ていると思つているその時に、

同時に様々な苦悩に取り巻かれ

ているのです。普段はそのこと

に気付かず、あるいは気付か

ないふりをして生活しているの

です。そして、ある日突然に降

りかかってくるように苦悩の間

に襲われるのです。そして絶望

するのです。

苦悩に向き合う力それが念仏

法然上人のように立派な方で

さえ、自分の力で心安らかにな

ることは出来ないとおっしゃつ

ています。そして阿弥陀様の本

願力こそ私たちのために用意さ

れたものであるとおっしゃら

れ、南無阿弥陀仏というお念仏

の中に毎日を過ごすことを薦め

られました。その法然上人が口

癖のようにおっしゃっていた言

葉、それが表題のお言葉です。

つまり「生きている間はお念

仏を称えてその功德が積もり、

命尽きたならばお浄土に参らせ

ていただきます。いずれにして

もこの身にはあれこれと思ひ悩

むことなどないのだと思つたな

らば、生きるにも死ぬにも、な

にごとも悩みなどなくなるの

です。「とおっしゃっておられ

るです。

最後に、お言葉通りにお念仏

をお唱えしましょう。(住職)



「戦い」の世で

法然上人のおことは
 「お念仏を信ぜぬ人のことを、
 過去世での父母兄弟と違って、
 慈悲をおこして救おうと思っ
 べきである」

『鎌倉の二位の禅尼へ進ずる御返事』より



「戦い」が世の中にあふれて
 います。

ライブドアのホリエモンこと
 堀江社長。フジテレビとのあい
 だでくりひろげるニッポン放送
 の争奪戦が、話題になりました。
 た。「韓流」とよばれる韓国
 プームの中、竹島（独島）をめ
 ぐる領土問題では、島根県が
 「竹島の日」を制定したことで
 波紋が広がっています。同時多
 発テロにはじまるイラク戦争か
 らは、もう二年がたちました。
 戦いがないにこしたことはあ
 りません。ですが戦わざるをえ
 ない時がある、というのも事実
 です。

かくいう私は、幼少から運動
 が得意でなく、けんかでもいつ
 も泣かされてきました。しかし
 大学に入ったとき一念発起して
 はじめたのが、合気道でした。
 合気道というと、日本の古い
 武道というイメージが
 あるかもしれませんが。
 しかしその歴史は意外
 と浅く、開祖である植
 芝盛平（一八八三—一
 九六九）は昭和まで生
 きた人です。

合気道には試合があ
 りません。試合は「死
 合」に通じるとい
 います。また、おそいか
 かってくる相手の力を
 受け流して技をかけま
 すので、体力の弱い老人や女性
 にも適しています。
 それは、植芝盛平のことばに
 もあらわれています。
 「いかなるはやわぎで敵がおそ
 いかかってきても、私は敗れな
 い。私の技が敵の技より速いか

仏さまからの手紙

らではない。敵が『宇宙そのも
 のである私』と争おうとするこ
 とは、宇宙との調和をやぶろう
 としているのだ。すなわち、私
 と争おうという気持ちをおこし
 た瞬間に、敵はすでにやぶれて
 いるのだ。邪気のある人間、争
 う心のある人間は、はじめから
 負けているのだ。…それではど
 うすれば、自分の邪気をはら
 い、心をきよくして、宇宙の活
 動と調和することができるか。
 いつもかわらず、宇宙のすみず
 みまでにおよぶ、偉大なる
 『愛』の心がある。この神の心
 を自分の心とすることだ」
 （『合気道』より抜粋・要約）

邪気をおこしておそってくる
 相手に対し、その動きを受け流
 していくうちに、自然に技がか
 かるのです。人々の邪気をおさ
 めようという「神の心」を、武
 道というかたちで表現するのが
 合気道ではないかと思えます。
 さて、仏教のこころは合気道

にも通じるようです。
 わたしたちのひとりひとりに
 向けられた阿弥陀様の慈愛。こ
 れを感じ、それに答えるわたし
 たちの行為が、南無阿弥陀仏と
 となえるお念仏です。阿弥陀様
 のあたたかい心をつねに感じて
 いる人は、日々おそってくる敵
 に対して、どのような態度でか
 まえるのでしょうか。

鎌倉の世に新しいお念仏を広
 めようとした法然上人の前に
 も、さまざまな反対者が現れま
 した。法然上人は、そのような
 人々をあわれみ、ゆくゆくは必
 ず導いてみせようと、思いを新
 たにされたのです。
 なぜ、そう思うことができた
 のか。それは法然上人が、阿弥
 陀様の意志を自分がなりかわっ
 て行っているという信念があっ
 たからであるうと思えます。仏
 は、自分に背を向ける衆生を、
 ぜひ救わねばと、追いかけてい
 るからです。
 （副住職）

お寺との付き合い

お葬儀の手順(その一)

臨終から納棺まで

臨終のとき

お葬式とは、家族を失うという大きな悲しみの中で、経験のないことを行うということであり、その心労は大変なものと思います。昔は隣組のような助け合いの仕組みがあったのですが、最近ではご近所とのつきあいが薄くなり家族の負担が大きくなっています。

ご家族がお亡くなりになつたら医師による確認が必要となります。自宅でお亡くなりになつた場合でかかりつけの医師がいる場合には医師に連絡します。かかりつけの医師がいない場合には救急に連絡してください。病院の場合には担当に医師にお任せしてください。病院でなくなつた場合にはご遺体を自宅まで搬送することになります。

葬儀社への連絡

ご遺体は自宅に安置します。

ご遺体は仏壇に仏壇に平行にして頭を右側にして安置し、枕飾りをします。そこで、病院からのご遺体の搬送や、ご遺体を仏間に安置するときまでに葬儀社を決め連絡を取る必要があります。互助会に加入していることもありますから、事前に葬儀社を決めておく必要があります。

大きな病院では葬儀社が霊安室を担当しています。その葬儀社を使わなければいけない訳ではありません。ご遺体の搬送から葬儀まで自分で決めた葬儀社をお使いになつて結構ですし、病院の出入り業者をお使いになるのも結構です。

寺への連絡

昔は親族の者が二人で寺に知らせに来ました。最近は電話で第一報が入ります。連絡の時間帯は深夜にお亡くなりになつた場合でも、朝七時以降にお願い

します。最近では葬儀社から第一報が入る場合があるのですが、出来るだけ親族の方から連絡をいただきたいものです。また、葬儀社と相談して通夜とか葬儀の予定を決めた上で連絡を受けることがあるのですが、都合がつかない場合も有りますので要注意。必ず寺と相談してから日程を決めて下さい。

枕経

寺の近くの場合には住職の都合がつく限り枕経にお伺いします。枕経では故人が仏弟子に成るための作法を行い、戒名を授与いたします。戒名は故人の信仰、人柄、年齢、お名前、寺への貢献度などさまざまな角度から文字を選び授与します。

納棺

近親者の手で死に装束をつけ、ご遺体を棺に納める儀式です。葬儀社の方がお手伝いしてくれます。(つづく)

編集後記

春になると日差しも暖かく、とても楽しい気分になります。また一方では卒業、引越などで大切な友人、知人と別れ、寂しさを感じることもあります。私も今春は大変お世話になつた方とお別れし、残念に思っています。しかしいつまでも嘆いてもいられませぬ。春はスタートの季節でもありません。また新たな出会いがあり、その出合いを大切にしたいです。「蜂が花の蜜を採るとき ただその味だけを採って その色と香りをそこなうことはない」(仏遺教典の一説です。蜜蜂は蜜だけ採って、他は何も傷つけません。自然で素直な気持ち・行動で、まわりに迷惑をかけずに無心にかつ何の力みもなく、自らの目的を遂げます。春、心機一転、周囲をそこなうことなく本当のものを求めて力強く進んでいきたいものです。

(副住職室 久美英)